

陸連時報 三

2014
平成26年

10 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

アジア大会に向けた抱負 (理事・強化委員長 原田康弘)	222
第15回世界ジュニア陸上競技選手権大会 (2014 / ユージン) 報告 (強化委員会強化育成部幹事 遠藤俊典)	224
“日清食品カップ” 第30回全国小学生陸上競技交流大会報告 (普及育成委員会 熊原誠一)	228
国際陸上競技連盟 (IAAF) カウンシル会議報告 (国際委員長 田中克之)	230
日本陸連疲労骨折予防10か条 (医事委員会委員 桜庭景植)	232
練習中及び競技会中の事故について (事務局)	233
2014 数字で見る陸上競技 Vol.4 (都道府県別高校生陸上競技部員割合)	234
大会観戦ガイド	235
陸協NEWS	236
事務局からのお知らせ	238

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

アジア大会に向けた抱負

理事・強化委員長 原田 康弘

強化委員会では、仁川アジア大会に向けて、本年度冒頭に10個の金メダル獲得を目標として打ち出した。これに関して、「妥当だ」という評価と「思い切った目標設定」という評価が入り混じり、その妥当性について少々不安な面もあった。また、2016年のリオデジャネイロオリンピックおよび2015年の北京世界選手権における参加標準記録が一本化されることに伴い、記録水準が高まるのが想定される。そこで、アジア大会の選考においても、これらの記録水準を推測したうえで、オリンピックおよび世界選手権への出場に向けて目標となりうる記録を派遣設定記録として設定する必要があるものと考え、世界ランキング12位に相当する派遣設定記録A、および世界ランキング32位に相当する派遣設定記録Bを基準として選考することとした。しかし、これらの記録の水準が非常に高いために、これらの基準を突破する選手が著しく少なくなってしまう可能性も推測され、それを考えると、大きな不安に襲われることも少なくなかった。一方で、派遣設定記録AおよびBに満たなくても、メダルの獲得が期待できる競技者を派遣する方針も示した。しかし、この基準とて、近年アジア地区の競技レベルが大幅に向上していることを考えれば、そう容易く突破できる基準ではない。このように、アジア大会の目標設定および選考方法の決定に際して、これに日本選手権が天候に恵まれなかったことも相まって、選手の選考までは大きな不安を抱きながら過ごす日々が続いた。しかし、選考会議を終え、選考された選手の顔ぶれをみて、厳しい選考基準を課したことが選手をたくましく成長させたこと、およびこれだけの精鋭を選考するに至ったことに影響を及ぼしたものと、様々な不安は目標達成への大きな期待に変わった。かならずや金メダル10個の目標を達成してくれるものと確信している。

本大会は、ロンドンオリンピックおよびモスクワ世界選手権を終え、リオデジャネイロオリンピックに向けた再スタートとなる競技会である。そして、アジア大会での優勝者には世界選手権の選考に際してインセンティブが与えられて、世界選手権の上位入賞者にはオリンピックの選考に際してインセンティブを与えることは、それぞれの大会の代表選手選考方針として既に示した通りである。このように、本大会は、リオデジャネイロオリンピックに向けた一連の選手選考プロセスのスタートである。このため、リオに向けてエースとなる競技者の見極め、また新たなエース候補の出現を期待している。その中心となるのは、主戦場をダイヤモンドリーグなどの世界最高峰の場に求めた若武者たちであろう。今シーズンは世界大会狭間のシーズンで

あり、強化委員会では海外競技会への積極的な挑戦を促進してきた。その結果、短距離の飯塚翔太選手（ミズノ）、やり投の新井涼平選手（スズキ浜松AC）、走高跳の戸邊直人選手（千葉陸協）、棒高跳の山本聖途選手（トヨタ自動車）と澤野大地選手（富士通）のように、ダイヤモンドリーグという世界最高峰の舞台に立ち、非常に高い成果を上げる選手もみられた。これらの選手以外にも、近年になく多くの選手がヨーロッパを中心に武者修行に出かけており、非常に頼もしい。これら以外にも、フランスで開催されたデカネーション大会やモロッコで開催のコンチネンタルカップにも、積極的に選手を派遣することとした。これらの大会に派遣の選手には、アジア大会でも本来の力を発揮してくれることで、エースとしての存在感をしっかりと示してほしい。一方で、エース不在の種目も少なくない。そして、これらの種目におけるベテランへのカンフル剤として、今大会における目玉の選考基準である強化育成部から推薦された競技者の活躍も楽しみである。これは、2020年東京オリンピックに向けた競技者育成策の一環である。しかし、将来が囁かれる優秀な若手に国際経験を積ませることだけが目的ではなく、上述のようにベテランへのカンフル剤としての役割も期待できる。例えば、女子の4×100mリレーチームではこの基準で選考された土井杏南選手（大東文化大学）が活躍することによって福島千里選手（北海道ハイテクAC）に刺激を与え、4×400mリレーチームでは松本奈菜子選手（浜松市立高校）や青山聖佳選手（松江商業高校）が活躍することによって、日本記録保持者の千葉麻美選手（東邦銀行）や久保倉里美選手（新潟アルビレックスRC）に刺激を与えることにつながるかと考えている。さらに、男子4×400mリレーチームでも、エースの金丸祐三選手（大塚製薬）が永年にわたりチームを引っ張ってくれているが、そろそろ若手の台頭に期待したい。そして、次期エースとして名乗りを上げているのが、世界ジュニアでも銀メダルを獲得した加藤修也選手（早稲田大学）であろう。加藤選手も、強化育成部からの推薦競技者として派遣されるので、加藤選手の活躍が金丸選手を刺激することを期待している。

先述のように、世界選手権やオリンピックの参加標準記録が一本化される。全体の出場者数の内75%を参加標準記録の突破者で満たすことを検討しているとも言われ、これらの情報から参加標準記録を推測すると、これまでのA標準記録程度、もしくはそれをわずかに下回るような高い水準で設定される種目が出てくることも推測される。これにより、日本チームの参加標準記録を満たす競技者数は減少



期日	時刻	種目	期日	時刻	種目	期日	時刻	種目
9/27 (土)	18:30	女子100m	9/29 (月)	10:00	女子七種競技 走幅跳	10/1 (水)	07:00	男子50km競歩 決勝
	18:40	女子走幅跳		11:30	女子七種競技 やり投		09:00	男子十種競技 110mH
	18:55	男子ハンマー投		18:30	男子走高跳		09:15	男子三段跳
	19:00	男子100m		18:35	女子七種競技 800m		09:25	女子200m
	19:25	女子砲丸投		19:00	女子走幅跳		09:40	男子十種競技 円盤投
	19:30	女子10000m		19:05	女子1500m		09:45	男子200m
	20:25	女子400m		19:15	男子1500m		11:00	男子十種競技 棒高跳
	21:00	男子400m		19:30	女子円盤投		18:30	男子十種競技 やり投
	21:20	男子5000m		19:35	女子4×100mリレー		18:35	女子100mH
	21:50	女子3000m障害物		20:25	男子4×100mリレー		18:50	女子三段跳
	08:00	男子20km競歩		21:05	男子3000m障害物		19:10	女子800m
	11:00	女子20km競歩		21:45	男子4×400mリレー		19:25	男子800m
	10:00	女子七種競技 100mH		22:10	女子4×400mリレー		19:50	男子200m
	10:05	男子走幅跳		10:00	男子十種競技 100m		20:00	男子200m
10:30	男子1500m	10:25	女子400mH	20:10	女子やり投			
10:40	女子七種競技 走高跳	10:40	男子十種競技 走幅跳	20:35	女子400mH			
10:50	女子1500m	10:55	男子400mH	20:50	男子400mH			
11:15	男子400m	12:00	男子十種競技 砲丸投	21:30	男子十種競技 1500m			
11:35	女子400m	18:30	女子棒高跳	09:00	女子マラソン			
18:30	男子棒高跳	18:35	男子十種競技 走高跳	18:30	女子走高跳			
18:35	女子七種競技 砲丸投	18:40	男子円盤投	18:50	男子やり投			
18:40	女子ハンマー投	18:45	女子100mH	18:55	男子三段跳			
19:00	女子100m	19:15	男子200m	19:00	女子5000m			
19:15	男子100m	19:40	男子走幅跳	19:35	女子4×100mリレー			
19:35	女子400m	19:45	男子200m	19:50	男子4×100mリレー			
19:50	男子400m	20:15	女子800m	20:35	男子4×400mリレー			
20:35	男子110mH	20:45	男子800m	20:45	女子4×400mリレー			
21:05	女子七種競技 200m	21:20	男子110mH	20:55	男子砲丸投			
21:20	男子100m	21:35	男子十種競技 400m	21:20	男子10000m			
21:30	女子100m			09:00	男子マラソン			

※競技日程は最終エントリー等により、変更の可能性がある。(2014年8月6日現在)

する可能性もある。選手層の厚さはトップの競技力に影響することを考えれば、出場者数が少なく、競争が少ないことは、その場で活躍する選手が少なくなる可能性のあることを示している。したがって、なんとしても層を厚くする手立てを検討しなければならない。そして、この方策として、強化育成部からの推薦競技者は非常に重要な役割を担っていると考えており、その活躍に期待したい。

なお、強化育成部からの推薦競技者については、代表選手の発表に際しても、短距離や跳躍といった出場する種目の代表として発表するのではなく、「強化育成部から推薦された競技者」として別の枠で掲載した (http://www.jaaf.or.jp/asia_competitionを参照)。これらの競技者自身は、東京オリンピックに向けて強化委員会がその成長に期待している競技者であることを自覚し、またそれを誇りに今後も精進してもらいたい。一方で、ベテランに位置する選手には、強化育成部からの推薦競技者が選出された種目では、力のある若手が育ってきていることを危機感として持って、さらなる競技力の向上に邁進してもらいたい。強化育成部からの推薦競技者を選出した理由は先述のとおりである。このような形で若手競技者に特別な出場枠を与えたことに関して、賛否両論あることは承知している。アジア大会が終了した時点において、この選考方法に関しては振り

返り、よりよい選考方法に関して検討する必要があるものの、この選考方法の成果を見極める意味でも、ある程度の期間は続ける必要があるものと考えており、参加標準記録の設定されていない国際大会では、今後ともこの選考基準は設けていきたいと考えている。

アジア大会まで残すところ半月程度となったが、概ね順調にトレーニングを積んでいるようである。男子の短距離は北海道の千歳で、男子マラソンは釧路・士別で、女子マラソンはアルパークキでそれぞれ強化を目的とした合宿を張った。それぞれの合宿では、代表選手が精力的にトレーニングを積んでいるとの報告を受けている。また、合宿を張っていないブロックでも、選手たちは個人のトレーニング拠点で、順調にトレーニングを続けているとの報告を受けている。これらの合宿には、非常に多くの方々にご協力を頂いている。特に、ブロック部長を始め強化委員会のメンバーには、休日返上も厭わず代表チームのサポートを頂いている。また、科学委員会および医事委員会の方々のサポートも大変ありがたい。さらに、代表選手の専任コーチおよび所属先にも、日本陸連の強化事業へのご理解とご協力を頂いており、ここに記してお礼を申し上げたい。このように多くの方々の見返りを求めない厚意によって自身自身の競技活動が成立していることを選手達には自覚して

【男子4×400mリレー日本代表選手の交代】

男子4×400mリレーの代表選手に選出されていた渡邊和也選手(チームミズノアスレティック)の怪我による出場辞退の申し出を受け、高平慎士選手(富士通)を追加選出しました。

高平慎士: 1984年7月18日生 富士通・千葉 180cm/62kg

○2004年アテネ/2008年北京/2012ロンドン オリンピック出場

○2014年の主な戦績 静岡国際(20秒50:派遣設定記録B)/日本選手権(20秒82:6位)

／第1回世界リレー(4×200mリレー) 出場

旭川市立六合中学校(北海道)→旭川大学高等学校(北海道)→順天堂大学

指導者 中学校:陸上部 森 雅則/高校:陸上部 斉藤登世彦/

大 学:陸上部 佐久間和彦

(大会に向けての抱負) チームの目標に向けて全力でやるのみです!

(種目の魅力) 400mの4人で様々な展開になり最後まで何ががあるか分からないのが面白いと思います。

第15回世界ジュニア陸上競技選手権大会(2014/ユージン)報告

強化委員会 強化育成部 幹事 遠藤 俊典

表1 第15回世界ジュニア選手権大会(2014/ユージン)選手団
(役員)18名 期日:2014年7月22日(火)~7月27日(日) 場所:ユージン(アメリカ)

No.	役職	氏名	所属	No.	役職	氏名	所属
1	監督	山崎 一彦	強化委員会 強化副委員長・強化育成部長	10	跳躍コーチ	福岡 博樹	強化委員会 強化育成部 委員
2	ヘッドコーチ	清水 禎宏	強化委員会 強化育成部 副部長	11	跳躍コーチ	杉林 孝法	強化委員会 跳躍部 幹事
3	男子短距離コーチ	土江 寛裕	強化委員会 男子短距離部 副部長	12	投擲コーチ	田内 健二	強化委員会 投擲部 委員
4	男子短距離コーチ	松永 成旦	強化委員会 強化育成部 委員	13	投擲コーチ	永井 啓太	今治明德高等学校
5	女子短距離コーチ	田川さなえ	強化委員会 強化育成部 委員	14	総務	遠藤 俊典	強化委員会 強化育成部 幹事
6	ハードルコーチ	吉田 良一	強化委員会 強化育成部 委員	15	ドクター	向井 直樹	医事委員会 副委員長
7	女子長距離コーチ	荻原 知紀	強化委員会 強化育成部 委員	16	トレーナー	松尾信之介	医事委員会 トレーナー部 委員
8	男子長距離コーチ	両角 速	強化委員会 強化育成部 委員	17	トレーナー	東 千夏	医事委員会 トレーナー部 部長
9	競歩コーチ	清水 茂幸	強化委員会 強化育成部 委員	18	渉外	山田真理子	日本陸連 事務局 事業部

(男子)28名、(女子)15名

男子・出場種目	氏名	ヨミガナ	所属・登録陸協	生年月日	PB	SB
100m・4×100mリレー	桐生 祥秀	キリュウ・ヨシヒデ	東洋大学・埼玉	1995/12/15	10.01	10.05
100m・4×100mリレー	川上 拓也	カワカミ・タクヤ	中央大学・千葉	1995/06/08	10.40	10.45
200m・4×100mリレー	小池 祐貴	コイケ・ユウキ	慶應義塾大学・北海道	1995/05/13	20.61	20.61
200m・4×100mリレー	森 雅治	モリ・マサル	大東文化大学・神奈川	1995/01/27	20.92	20.92
400m・4×400mリレー	加藤 修也	カトウ・ノブヤ	早稲田大学・静岡	1995/04/16	45.69	46.21
400m・4×400mリレー	油井 快晴	ユイ・カイセイ	順天堂大学・静岡	1996/02/06	46.76	46.78
4×100mリレー	犬塚 渉	イヌヅカ・ワタル	浜名高校・静岡	1997/07/08	10.41	10.41
4×400mリレー	ウォルシュ・ジュリアン	ウォルシュ・ジュリアン	東野高校・埼玉	1996/09/18	46.98	46.98
4×400mリレー	北川 貴理	キタガワ・タカマサ	敦賀高校・福井	1996/09/05	46.98	47.16
5000m	川端 千都	カワバタ・カスト	東海大学・京都	1995/12/20	13:54.80	13:54.80
5000m	鬼塚 翔太	オニヅカ・ショウタ	大牟田高校・福岡	1997/09/13	13:58.43	13:58.43
10000m	中谷 圭佑	ナカタニ・ケイスケ	駒澤大学・兵庫	1995/01/12	28:51.10	28:51.10
10000m	服部 弾馬	ハットリ・ハズマ	東洋大学・埼玉	1995/02/07	28:55.31	28:55.31
110mH	金井 大旺	カナイ・タイオウ	法政大学・北海道	1995/09/28	13.33 (JH)	13.33 (JH)
110mH	鍵本 真啓	カギモト・マサヒロ	立命館大学・奈良	1995/09/29	13.51 (JH)	13.51 (JH)
400mH	坂梨 雄亮	サカナシ・ユウスケ	中央大学・静岡	1995/04/26	50.76	50.76
3000mSC	塩尻 和也	シオジリ・カズヤ	伊勢崎清明高校・群馬	1996/11/08	8:48.32	8:48.32
10000m競歩	松永 大介	マツナガ・ダイスケ	東洋大学・神奈川	1995/03/24	39:08.23	39:18.71
10000m競歩	山下 優嘉	ヤマシタ・ユウガ	東洋大学・富山	1996/02/06	41:32.23	41:32.23
走高跳	中島 大輔	ナカジマ・ダイスケ	日本大学・栃木	1995/04/18	2m20	2m20
走高跳	中澤 優	ナカザワ・ユウ	富山商業高校・富山	1996/08/27	2m16	2m16
棒高跳	鈴木 康太	スズキ・コウタ	中京大学・愛知	1995/12/18	5m20	5m20
走幅跳	城山 正太郎	シロヤマ・ショウタロウ	東海大学北海道・北海道	1995/03/06	7m70	7m70
走幅跳	佐久間 滉大	サクマ・コウダイ	法政大学第二高校・神奈川	1996/04/29	7m67	7m67
三段跳	山本 凌雅	ヤマモト・リョウマ	順天堂大学・長崎	1995/07/14	16m10	16m02
三段跳	高橋 佑悟	タカハシ・ユウゴ	立命館大学・大阪	1996/02/08	15m84	15m84
やり投	森 秀	モリ・シュウ	今治明德高校・愛媛	1996/11/14	74m20	74m20
やり投	小南 拓人	コミナミ・タクト	国士館大学・北海道	1995/07/26	71m95	71m95
女子・出場種目	氏名	ヨミガナ	所属・登録陸協	生年月日	PB	SB
100m・200m・4×100mリレー	土井 杏南	ドイ・アンナ	大東文化大学・埼玉	1995/08/24	11.43・23.63	11.57・23.63
100m・4×100mリレー	足立紗矢香	アダチ・サヤカ	大分雄城台高校・大分	1996/06/26	11.66	11.66
200m・4×100mリレー	土橋 智花	ツチハシ・トモカ	岩手大学・岩手	1995/06/12	24.12	24.16
4×100mリレー	高森 真帆	タカモリ・マホ	青山学院大学・東京	1996/02/19	11.75	11.75
800m	平野 綾子	ヒラノ・リョウコ	筑波大学・神奈川	1995/03/03	2:05.16	2:06.75
3000m	高松望ムセンビ	タカマツ・ノヅミムセンビ	大阪薫英女学院高校・大阪	1997/08/31	9:08.22	9:10.08
3000m	山本 菜緒	ヤマモト・ナオ	常葉菊川高校・静岡	1996/10/20	9:10.39	9:10.39
5000m	出水田真紀	イズミダ・マキ	立教大学・神奈川	1996/01/22	15:38.22	15:50.26
5000m	木村葵有加	キムラ・フユカ	大東文化大学・山形	1995/01/13	15:51.11	15:51.11
400mH	伊藤 明子	イトウ・アキコ	筑波大学・東京	1995/05/26	58.80	58.80
10000m競歩	五藤 怜奈	ゴトウ・レナ	中部学院大学・岐阜	1995/09/06	46:15 (10kmW)	46:15 (10kmW)
10000m競歩	峰村 かな	ミネムラ・カナ	久喜高校・埼玉	1996/5/12	47:26 (10kmW)	47:26 (10kmW)
走幅跳	内之倉由美	ウチノクラ・ユミ	甲南高校・鹿児島	1996/10/10	6m16	6m16
やり投	當間 汐織	トウマ・シオリ	九州共立大学・沖縄	1996/02/07	55m75	55m75
やり投	久世 生宝	クゼ・キホウ	筑波大学・岡山	1995/03/28	58m98	54m16

1. 総合成績

金メダル1個、銀メダル3個、銅メダル2個の計6個のメダルを獲得し、メダルテーブルでは第10位にランクインした(表3)。4~8位の入賞数は15であり、1~8位を得点化した国別対抗ポイント(プレイングテーブル)は、第4位(表4)となり、世界ジュニア史上最高の成績を取ることができた。

表3 メダルテーブル トップ10

順位	国名	金	銀	銅	合計
1	米国	11	5	5	21
2	ケニア	4	5	7	16
3	エチオピア	3	3	0	6
4	英国	3	2	1	6
5	ロシア	3	1	2	6
6	フランス	3	0	0	3
7	中国	2	2	2	6
8	チェコ	2	1	0	3
9	キューバ	1	4	0	5
10	日本	1	3	2	6

表4 国別対抗ポイント トップ10

順位	国名	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	合計
1	米国	11	5	5	4	2	5	3	4	206
2	ケニア	4	5	7	1	2	0	1	0	124
3	ドイツ	0	2	5	5	3	1	1	1	87
4	日本	1	3	2	3	1	4	4	3	83
5	ロシア	3	1	2	2	5	2	1	0	81
6	英国	3	2	1	4	1	1	2	3	78
7	エチオピア	3	3	0	1	4	2	1	0	74
8	中国	2	2	2	3	2	1	0	2	70
9	キューバ	1	4	0	2	0	3	1	0	57
10	オーストラリア	0	1	1	3	3	1	6	1	56

全選手の結果を自己ベストに対する達成率でみると、男子では98.5±2.5%、女子では97.1±3.8% (いずれも追い風参考記録を含む)であり、本大会で自己記録を更新した選手は男子2名、女子3名であった。平均的にみると、男子と比較して女子ではやや達成率が低い傾向があった。上述のように、総合的な成果は過去最高成績をあげているものの、達成率を客観的にみるとジュニアの世界大会における成績としては良いものの、必ずしも高いものではない。シニアの世界大会における分析結果からは、当該シーズンのベストや自己ベストに対する達成率が順位に影響する種目も多くあることから、あと数%の達成率にこだわる取り組みを推進すべきであろう。

2. 選考過程

選手選考会議は、高校総体地区予選と日本学生個人選手権が終了した後に行われたことから、高校生および大学生の直近の結果を網羅した状態で資料を作成することができた。公表されている選考要項に基づき、「U19からオリンピックへ」を意識した選考ポリシーを共有して選考した。特筆すべき点として、先に行われた国際大会である「アジアジュニア選手権大会」において金メダルを獲得した競技者に配慮したこと、男子の両リレーについては、メダル獲得を目指したメンバー構成にしたこと、世界大会においてラウンドを通過し、1つでも上のラウンドを経験できるように配慮

した派遣設定記録であること、などがあげられる。また、本大会は、帰国直後に高校総体がスタートする日程となっていたために、高校生で選出された選手には、帰国の日程を最大限考慮することとした。これまでも世界ジュニア選手権と高校総体の日程とがほぼ重なるようなケースもみられたが、本大会においては、これまでと比較して、かなり多くの選手および指導者が世界ジュニア大会への参加意思を示していただいた。このことから、2020年の東京オリンピック開催を意識した多くの競技者および指導者が、最終的な競技力向上を念頭に置きながら、高校総体の位置づけと日本代表としての国際大会派遣による経験とのバランス感覚を持っていること、あるいは指導者としてはそれらを考慮した競技者育成を推進していただいていることが理解できた。東京オリンピックを基軸にして、より多くの競技者および指導者がこの感覚を共有できることが今後の選考にも大きく影響すると考えられた。

3. 現地の環境

本大会は、オレゴン大学(アメリカ・ユージン)のハイワードフィールドスタジアムで開催された。気温は30度程度で、日本と比較してわずかに低い程度であるが、湿度が低いため非常に過ごしやすい気候であった。ユージンはTrack Townと自称するほど、陸上競技に対する愛着が深く、ハイワードフィールドスタジアムは、大学内の競技場でありながらダイアモンドリーグを開催するなど由緒ある競技場として知られている。なお、オレゴン大学は本年度のNCAA Division 1の陸上競技総合優勝にも輝いている。大学はいわゆるUniversityであり、広大な敷地の中に、多くの施設を完備する総合大学である。

宿泊は、スタジアムから徒歩圏内の大学内の寮を使用した。日本選手団の棟には、1部他国が入っていたが、ほぼ専有の棟であったため生活に支障はなかった。唯一、浴槽がなかったこと(棟に1つ)が問題のようであった。食事は学食ブースにビュッフェ形式で展開され、海外の生活としては申し分ないものであった。その他、ランドリースペースも学内にあり、スーパーマーケットも学外ではあるが徒歩圏内にあったため、生活に不自由を感じることはなかった。また、大会運営に関する事務的な手続等もすべてスタジアムおよび学生寮近くの学内施設で行われたことからスタッフ陣も現地入りしてからの移動のストレスは全くなかった。さらに、練習場として指定されていたコミュニティカレッジまでは学内発着のバスで20分であり、トレーニング環境も申し分なかった。

以上のように、大会はほぼすべて大学の敷地内で生活、トレーニング、試合が行われ、環境的にもかなり

恵まれていたことからパフォーマンスの発揮を阻害する要因となるものはあまり見当たらなかった。このことは先に述べた好成績に影響していると考えられるが、本大会の好成績は以下の2点にも支えられている。

1) 世界大会で達成すべき結果に対する概念の質的变化

本大会に派遣された選手は、全員「メダル」を目指し、予選ラウンドを通過し、その1つ上のラウンドで勝負すること、すなわち入賞することは当たり前であるという意識のもとに大会が進んでいった。たしかに、強化育成部が展開している「オリンピック育成競技者研修合宿」等では「世界一を目指そう」を合言葉にチーム作りを推進しているが、実際の世界大会でそのような雰囲気醸成され、チームが勢いに乗ることができたことは大きな収穫であるように思われた。このことは加えて、前述の2.の選考段階において選考委員会が意図した内容を実際に試合で発揮できたことを意味している。選手が派遣基準に対応した成果をほぼそのまま達成できたことには大きな価値があり、世界大会でも力を発揮できることが「常」に変化していることを示唆していると考えられた。この傾向は、昨年の世界ユース選手権においても同様であったことから、育成世代の選手および指導者においては、「世界大会で競技力を発揮する」ことに対する総合的な意味でのノウハウが蓄積されつつある。これを各カテゴリーや国内の他の指導者、選手に伝播させることが必要であると考えられた。

2) コーチングスタッフおよびサポートスタッフの充実

コーチングスタッフ、ドクター、トレーナーはそれぞれ経験豊富であったことから、かゆいところに手が届く活動で、本大会での選手の活躍に大きく貢献したといえる。なかでも、シニアとの連携を考慮して、U23委員およびシニアの強化委員のコーチ陣4名（各ブロックにそれぞれ配置）を加えたことにより、高校生の指導者と大学生～シニアの指導者とが現地で有機的に連動し、単に本大会での成果を求めることだけにとどまらず、将来的な競技力向上を念頭においたコーチング活動を展開していた。スタッフミーティングにおいても、ブロック間の垣根なく今後の競技者育成の方向性について多くの議論が展開され、「いかにしてシニアにつなげていくか」をコーチ陣もそれぞれの立場で強く意識できる遠征となった。

4. 今後の課題

1) 選手の生活環境適応について

食事と生活の適応については、生活環境が良く、大学生選手が多くかつシニアカテゴリーでの経験もある選手が存在したために、比較的良好であったが、中

は不都合を解消しきれていない選手もいた。海外遠征時における生活環境への適応は常に課題として挙げられるが、「その環境にいかねばわからない」ことも事実なので、遠征時の対応について施策を講じるべきであろう。

2) 遠征の期間

本大会では、一斉に移動しているため試合当日までの期間が長くなりすぎている選手が当然ながら存在した。種目によっては、移動日から試合当日までの期間の長短がパフォーマンスに影響することを示唆する諸外国のコーチのコメントもあった。移動してからどのように調整していくかも重要な視点であるが、移動の日程・方法についてもそれと同様に重要な視点として理解し、調整していくことが今後の課題である。

3) 各国の選手および指導者育成システム、世界ジュニアへの派遣基準の調査

本大会には、初の試みとして科学委員会スタッフが調査のために派遣された。ジュニア世代の各国の状況を調査することが主たる目的でもあり、現地では要求すれば映像や時間分析の即時フィードバック等も行っていただき、特にリレーの戦略などには有効であった。今回は、試合時におけるパフォーマンス分析を主たる目的としていたが、今後はそれにとどまらず各国の選手および指導者育成システムや世界ジュニア選手権の位置づけからみたシニアとの連携、競技力向上施策などをより積極的に調査することが課題である。

また、国際大会への派遣基準に関しては、単に国内での好条件の記録だけではなく、様々な環境での記録と順位など総合的に評価できるよう考慮すること、育成年代のカテゴリーでは、将来性を評価した派遣によるタレント発掘・育成をどのように推進することができるかについて強化普及オリンピック対策プロジェクトと連動してその具体的な方法論を提示することが日本としての課題であることは認識している。このことが諸外国ではどのような状況にあるのか、どのような落としどころで実働しているのかについても情報が不足している。

繰り返しになるが、本大会での成果が、どのような形でシニアへ、そして2020年に向けて再構築されるかが課題である。そのことに対して何を調査し、どのような具体的な施策を講じ、実践していくことができるかについて、いち早く着手しなければならないことを実感した。

4) 若手指導者の派遣

先にも述べたように本大会の成果は、経験豊富なスタッフ陣に支えられたところは大きい。喫緊の課題である指導者育成について、大会派遣で得られる実体験は大きな要素となる。そのために、若手指導者を経験

豊富な指導者との組み合わせで派遣することが有効であろう。

東京オリンピックにむけた強化は、強化育成部のカテゴリーでは既に始まっている。U19該当の競技者お

よび指導者と本大会での成功体験を共有し、その新たな感覚で競技力向上を目指していくことが必要不可欠である。

表5 IAAF世界ジュニア陸上競技選手権大会(2014/ユージン)

期日:2014年7月22日~27日(ユージン・アメリカ)

■は当該ラウンドがないことを示す

男子	種目	氏名	所属	自己ベスト	日付	予選	日付	準決勝	日付	決勝
1	100m	桐生 祥秀	東洋大学・埼玉	10.01	7/22	10.40 (1/h7) -0.5m/s 準決勝進出	7/23	10.38 (4/h1) ±0.0m/s 決勝進出	7/23	10.34 -0.6m/s 3位 銅メダル
2	100m	川上 拓也	中央大学・千葉	10.40	7/22	10.46 (3/h2) +1.4m/s 準決勝進出	7/23	10.47 (4/h2) -0.3m/s 落選	7/23	
3	200m	小池 祐貴	慶應義塾大学・北海道	20.61	7/24	21.10 (1/h1) -0.8m/s 準決勝進出	7/24	20.66 (2/h3) +1.8m/s 決勝進出	7/25	20.34 +2.3m/s 4位入賞
4	200m	森 雅治	大東文化大学・神奈川	20.92	7/24	21.16 (2/h2) -0.1m/s 準決勝進出	7/24	20.71 (3/h1) +1.9m/s 決勝進出 PB	7/25	20.84 +2.3m/s 6位入賞
5	400m	加藤 修也	早稲田大学・静岡	45.69	7/22	46.23 (1/h3) 準決勝進出	7/23	46.26 (1/h2) 決勝進出	7/24	46.17 2位 銀メダル SB
6	400m	油井 快晴	順天堂大学・静岡	46.76	7/22	47.06 (1/h2) 準決勝進出	7/23	46.68 (3/h1) 決勝進出 PB	7/24	47.08 7位入賞
7	5000m	川端 千都	東海大学・京都	13:54.80					7/25	14:10.14 11位
8	5000m	鬼塚 翔太	大牟田高校・福岡	13:58.43					7/25	14:34.92 16位
9	10000m	中谷 圭佑	駒澤大学・兵庫	28:30.52					7/22	29:11.40 7位入賞
10	10000m	服部 弾馬	東洋大学・埼玉	28:55.31					7/22	29:12.74 8位入賞
11	110mH (99.1cm)	金井 大旺	法政大学・北海道	13.33 (99.1cm)	7/22	13.81 (3/h7) +0.6m/s 準決勝進出	7/23	13.85 (3/h1) -1.6m/s 落選	7/24	
12	110mH (99.1cm)	鍵本 真啓	立命館大学・奈良	13.51 (99.1cm)	7/22	13.68 (3/h3) -0.2m/s 準決勝進出	7/23	14.04 (6/h3) -1.7m/s 落選	7/24	
13	400mH	坂梨 雄亮	中央大学・静岡	50.76	7/23	52.46 (1/h4) 準決勝進出	7/24	51.68 (3/h1) 落選	7/25	
14	3000mSC	塩尻 和也	伊勢崎清明高校・群馬	8:48.32	7/25	8:54.95 (10/h1) 決勝進出			7/27	8:45.66 9位 PB
15	10000m歩歩	松永 大介	東洋大学・神奈川	39:08.23					7/25	39:27.19 1位 金メダル CR
16	10000m歩歩	山下 優嘉	東洋大学・富山	41:32.23					7/25	40:15.27 4位入賞 PB
17	走高跳	中島 大輔	日本大学・栃木	2m20	7/23	2m00 (11/B) 落選			7/25	
18	走高跳	中澤 優	富山商業高校・富山	2m16	7/23	2m14 (6/A) 決勝進出			7/25	2m05 13位
19	棒高跳	鈴木 康太	中京大学・愛知	5m20	7/24	5m00 (11/A) 落選			7/26	
20	走幅跳	城山正太郎	東海大学北海道・北海道	7m70	7/23	7m55 (3/A) +0.4m/s 決勝進出			7/24	7m83 +2.4m/s 3位銅メダル
21	走幅跳	佐久間湊大	法政大学第二高校・神奈川	7m67	7/23	7m38 (3/B) -0.9m/s 決勝進出			7/24	7m71 +1.7m/s 5位入賞 PB
22	三段跳	山本 凌雅	順天堂大学・長崎	16m10	7/25	16m27 (2/B) +2.2m/s 決勝進出			7/27	15m89 +0.9m/s 7位入賞
23	三段跳	高橋 佑悟	立命館大学・大阪	15m84	7/25	15m92 (4/A) +2.0m/s 決勝進出 PB			7/27	15m76 +0.3m/s 9位
24	やり投	森 秀	今治明徳高校・愛媛	74m20	7/25	69m67 (1/B) 決勝進出			7/27	69m73 8位入賞
25	やり投	小南 拓人	国士舘大学・北海道	71m95	7/25	67m02 (7/A) 決勝進出			7/27	67m07 10位

リレーメンバー

26	4×100mリレー	犬塚 渉	浜名高校・静岡	10.41						
27	4×400mリレー	ウォルシュ・ジュリアン	東野高校・埼玉	46.98						
28	4×400mリレー	北川 貴理	敦賀高校・福井	46.98						
4×100mリレー	予選期日	出場オーダー				順位		記録		
	7月25日	川上-桐生-小池-森				1/h2		39.23 決勝進出		
	決勝期日	出場オーダー				順位		記録		
	7月26日	川上-桐生-小池-森				2位 銀メダル		39.02		
4×400mリレー	予選期日	出場オーダー				順位		記録		
	7月26日	ウォルシュ-油井-北川-加藤				1/h2		3:05.40 決勝進出		
	決勝期日	出場オーダー				順位		記録		
	7月27日	ウォルシュ-油井-北川-加藤				2位 銀メダル		3:04.11 AJR/NJR		

女子	種目	氏名	所属	自己ベスト	日付	予選	日付	準決勝	日付	決勝
1	100m	土井 杏南	大東文化大学・埼玉	11.43	7/22	11.65 (2/h7) +1.4m 準決勝進出	7/23	11.84 (5/h3) +0.9m 落選	7/23	
	23.63			7/24	24.23 (6/h5) +2.1m 落選	7/24		7/25		
2	100m	足立紗矢香	大分雄城台高校・大分	11.66	7/22	12.24 (5/h3) +0.4m 落選	7/23		7/23	
3	200m	土橋 智花	岩手大学・岩手	24.12	7/24	24.49 (3/h1) -1.8m 準決勝進出	7/24	24.08 (7/h1) +2.5m 落選	7/25	
4	800m	平野 綾子	筑波大学・神奈川	2:05.16	7/22	2:11.99 (7/h2) 落選	7/23		7/24	
5	3000m	高松 望ムセ	大阪薫英女学院高校・大阪	9:08.22					7/24	9:02.85 4位入賞 PB
6	3000m	山本 菜緒	常葉薬科高校・静岡	9:10.39					7/24	9:24.41 11位
7	5000m	出水田眞紀	立教大学・神奈川	15:38.22					7/23	15:55.26 6位入賞
8	5000m	木村美有加	大東文化大学・山形	15:51.11					7/23	15:59.72 8位入賞
9	400mH	伊藤 明子	筑波大学・東京	58.80	7/24	1:00.06 (5/h4) 準決勝進出	7/25	1:00.11 (5/h1) 落選	7/26	
10	10000m歩歩	五藤 怜奈	中部学院大学・岐阜	46:15 (10kmW)					7/23	45:54.07 6位入賞 PB
11	10000m歩歩	峰村 かな	久喜高校・埼玉	47:26 (10kmW)					7/23	46:22.88 7位入賞 PB
12	走幅跳	内之倉由美	甲南高校・鹿児島	6m16	7/22	5m77 +0.7m (11/B) 落選			7/23	
13	やり投	當間 汐織	九州共立大学・沖縄	55m75	7/22	51m64 (8/B) 決勝進出			7/24	50m72 9位
14	やり投	久世 生宝	筑波大学・岡山	58m98	7/22	51.55m (5/A) 落選			7/24	

リレーメンバー

15	4×100mリレー	高森 真帆	青山学院大学・東京	11.75						
4×100mリレー	予選期日	出場オーダー				順位		記録		
	7月25日	足立-土井-土橋-高森				2/h3		45.38 SB 決勝進出		
	決勝期日	出場オーダー				順位		記録		
	7月26日	足立-土井-土橋-高森				6位入賞		45.40		

“日清食品カップ”第30回全国小学生陸上競技交流大会報告

普及育成委員会 熊原 誠一

“日清食品カップ”第30回全国小学生陸上競技交流大会は、47都道府県代表の小学生競技者1028名および指導者を集め、2014年8月22日（金）より8月23日（土）までの2日間の日程で、横浜市・日産スタジアムを主会場とし、新横浜プリンスホテルを選手村として、研修会・競技会を開催いたしました。“日清食品カップ”第30回全国小学生陸上競技交流大会の概略を下記の通り報告いたします。

第1日目（8月22日・金曜日）

～前日フリー練習会・指導者研修会・監督会議～

第28回大会より、47都道府県選手団が研修として、安藤百福発明記念館（愛称：カップヌードルミュージアム）の見学を行うことになりました。見学の時間により、競技場到着時間が様々となるために11時30分から17時30分までの時間帯で、到着選手団から順次前日フリー練習会として、主競技場で100m・ハードル・跳躍、補助競技場でリレー、投てき練習場でソフトボール投のフリー練習を行いました。

昨年度は突然の雷雨により、途中から雨天練習場での練習となってしまいましたが、今年度は天候に恵まれ、11時30分から17時30分まで予定通りに実施することが出来ました。

気温が高くなり、熱中症の心配もありましたが、指導者の皆さんの適切な指導により、体調を崩す選手もなく、無事に練習会を終了することができました。

練習会の一方、15時30分からは各選手団2名の指導者に参加していただき、指導者研修会を実施いたしました。今回の研修は、北海道ハイテクAC監督の中村宏之氏による講演を実施いたしました。

45分間と短い研修ではありましたが、福島千里選手など多くのトップアスリートから、最近は小学生まで指導されている中村宏之氏の指導経験から、現場報告・練習への考え方などを中心にお話しいただきました。

指導者研修会後の16時30分より監督会議を実施しました。競技運営上の諸注意や開会式などの連絡や確認を行い、17時15分過ぎに監督会議が終了し、1日目の全日程を終えることが出来ました。

第2日目（8月23日・土曜日）

～開会式・指導者表彰・競技会・表彰式～

昨年は前日の雷雨のため芝生が濡れており、入場行進・整列は中止となりましたが、今年度は予定通り8時30分に開会式、入場行進から開会式を始められました。今回の入場行進の行い方は初めて行うものであり、リハーサルもないために不安なところでしたが、無事に入場できたのではないかと考えております。

整列の後、主催者を代表して横川 浩会長による開会の挨拶、後援・協賛者を代表されまして公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団理事長、日清食品ホールディ

ングス株式会社代表取締役社長・CEO 安藤宏基様よりご挨拶をいただきました。引き続き、文部科学大臣祝辞を文部科学省 スポーツ・青少年局体育参事官付教科調査官 高田 彬成様、横浜市長祝辞を横浜市市民局長 西山 雄二様より代読していただきました。尾縣専務理事登壇後、選手宣誓は福井県代表の高間 臯成君と北川 柚芽夏さんにより行われました。最後に日清食品グループ陸上競技部の皆さんの紹介を行い、閉会式後、一斉に選手団が退場して開会式を終えました。

男女友好100mと女子ソフトボール投の選手は例年怪我が多いということが反省点としてありましたので、今回はウォーミングアップのために開会式への参加は自由としました。しかしながら、開会式に参加していた選手が多くいたために、開会式途中で招集のために退場するということが多く見られ、次回への課題となりました。

開会式に引き続き、小学生陸上競技の普及発展に貢献されました指導者の皆さんに対して、「安藤百福記念章」の授与式が行われ、各都道府県陸上競技協会より推薦された46名の受賞者に対して、横川 浩会長から表彰状、公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団理事長、日清食品ホールディングス株式会社代表取締役社長・CEO 安藤 宏基様から記念盾が授与されました。

表彰終了後の9時30分に友好女子100mから競技が開始されました。天候は夕方頃まで曇りの予報でしたが、残念ながら昼前には雨が降り出し、生憎のコンディションとなってしまいましたが、選手の皆さんの熱戦に会場は盛り上がりました。

特に6年男女100mは男女ともに2連覇、女子80mH、女子走幅跳では大会記録に迫る素晴らしいパフォーマンスが見られました。ほぼ予定通りに競技は進行し、決勝が始まる頃には雨も上がり、17時30分には男子4×100mリレーが行われ、大会新記録樹立で全競技を終了することが出来ました。

各種目の表彰式ではプレゼンターとして、日本代表経験のある井村久美子さん（イムラアスリートアカデミー）、高平慎士選手（富士通）、木村慎太郎さん（アシックス）、佐藤悠基選手（日清食品グループ）、福島千里選手（北海道ハイテクAC）が入賞者にメダル・トロフィーを授与してくれました。

競技結果につきましては、日本陸上競技連盟ウェブサイトにてご覧下さい。なお、今大会における大会新記録は、男子4×100mリレー栃木県代表のTOJ（加瀬翔太・石川翼・関根功織・町田裕亮）が決勝で記録した48秒65でした。

また、競技会の模様は、8月30日（土）15時から16時30分にNHK Eテレにて、各種目決勝が録画放映されました。

来年度の第31回大会以降も、大会開催の基本理念（交

流・研修を中心に考える)を踏まえながら、指導者の皆様のご意見等を検討し、改善してまいりたいと考えております。今後とも本大会に対するご理解ならびにご協力をお願い申し上げます。

最後に、ご後援いただきました文部科学省、横浜市、公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団、公益財団法人日本体育協会日本スポーツ少年団、読売新聞社、ご協賛いただきました日清食品ホールディングス株式会社、ご協力いただきましたアシックスジャパン株式会社、株式会社ニシ・スポーツ、ミズノ株式会社をはじめ多くの関係各団体・各位に対し、心から感謝申し上げます、第30回全国小学生陸上競技交流大会の報告といたします。

謝辞

“日清食品カップ”第30回全国小学生陸上競技交流大会の開催に当たり、主管いただきました神奈川陸上競技協会役員・競技審判員の皆様、補助員として協力いただき

ました東京学芸大学・東京女子体育大学・日本女子体育大学・桐蔭横浜大学・武蔵大学陸上競技部員の皆様に対し、心から厚くお礼申し上げます。



6年男子100m決勝

表1 決勝記録一覧表 (GR:大会新)

男子		1位		2位		3位		4位		5位		6位		7位		8位		
月/日	種目	風速	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録
8/23	5年男子100m	-0.5	森聖弥 (5) 兵庫・龍野	12.70	山本翼 (5) 岡山・常盤AC	12.85	山本翼 (5) 香川・紀伊小	13.31	山小智也 (5) 新潟・柏崎T&F	13.36	長沼俊 (5) 福岡・福岡キッズ	13.38	山口大凱 (5) 鳥取・布勢TC	13.44	町井大城 (5) 北海道・TEAM北斗浜分	13.50	西吉菜汰 (5) 宮崎・高鍋陸上	14.08
8/23	6年男子100m	+0.1	赤石健 (6) 群馬・伊勢崎クラブ	12.04	西尾晃太 (6) 兵庫・小野	12.19	越後瀬那 (6) 秋田・能代第四小学校	12.21	中山琉唯 (6) 茨城・江川北小学校	12.30	渡邊勇太郎 (6) 栃木・那須塩原Jr	12.30	平野智也 (6) 静岡・磐田陸上	12.34	大島理雄 (6) 東京・法政AC	12.40	中矢智也 (6) 奈良・ACI山添	12.45
8/23	男子80mH	-0.5	西野壮汰 (6) 兵庫・本多関	12.43	岡拓輝 (6) 埼玉・春日部陸友	12.50	清田渉矢 (6) 岐阜・美濃加茂ジュニア	12.86	中山凌 (6) 宮崎・宮水クラブ	12.88	住々悠馬 (6) 鳥取・関金小	12.89	笠原文都 (6) 栃木・真阿小	12.92	近藤翠月 (6) 新潟・柏崎T&F	12.94		
8/23	走高跳		竹之内優武 (6) 奈良・里風	1.45	奥田大 (6) 鳥取・上小鴨クラブ	1.45	笹木流 (6) 北川元龍誠 (6)	1.40	北海道・厚沢部AC	1.40	佐々木悠人 (6) 島根・浜田JAS	1.40	本名新 (6) 福島・東山	1.40	宮里尚芳 (6) 沖縄・稲田陸上クラブ	1.40	吉岡想太郎 (6) 長崎・中里クラブ	1.35
8/23	走幅跳		瀬崎勝太 (6) 鹿児島・出水市陸上	5.34 (-0.8)	佐藤樹 (6) 群馬・富岡市陸協	5.20 (-0.3)	小畑太楓 (6) 島根・松江陸上教室	5.09 (-0.9)	田村蓮 (6) 山口・ふくっ子陸上	5.08 (+1.8)	藤井佑一郎 (6) 新潟・元気トキめき	5.04 (-0.6)	堀川結生 (6) 香川・勝間小	4.98 (-1.5)	首藤優大 (6) 兵庫・石海	4.97 (+0.6)	佐藤三太 (6) 北海道・函館CRS	4.81 (+0.9)
8/23	ソフトボール投		小西海斗 (6) 秋田・川連	79.30	清水大晟 (6) 三重・青山	78.24	山下隆勢 (6) 熊本・ドリームス	74.12	山脇步真 (6) 香川・比地小	74.09	関川峻司 (6) 長野・本城	72.89	大野拓巳 (6) 山口・山口陸スポ	68.91	東浦大二郎 (6) 奈良・御所陸上	68.76	黒川耀紀 (6) 千葉・上野小AC	68.64
8/23	4×100m		板木 48.65 TOJ GR 加瀬翔太 (6) 石川翼 (6) 関根功織 (6) 町田裕亮 (6)	50.31	宮崎西陸上 山村息吹 (5) 山内優毅 (6) 岩永俊介 (6) 原田友 (6)	50.71	安城JAC 山北星南 (6) 谷口智紀 (6) 長田峻汰 (6) 松浦孝之 (6)	50.76	山形 赤瀬アスリートクラブ 島貫達也 (6) 竹田健太郎 (6) 佐藤賢明 (6) 伊藤悠希 (6)	51.71	前橋市陸協 多田夏也 (6) 植木啓太 (6) 西郷光 (6) 橋本隼人 (6)	51.71	島根 益田陸上教室 矢野佑介 (6) 川上航汰 (6) 中島祐樹 (6) 野上萌土 (6)	52.25	浜松陸上 鈴木颯馬 (6) 齊田太郎 (6) 原田湧大 (6) 世古宗祐真 (6)	52.65	岩手 盛岡クラブ 廣田颯斗 (6) 木内淳平 (6) 葛巻亮太 (6) 藤平研登 (6)	54.72
女子		1位		2位		3位		4位		5位		6位		7位		8位		
月/日	種目	風速	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録	氏名/所属	記録
8/23	5年女子100m	+0.2	波江野夏帆 (5) 大阪・なにわJAC	13.41	綿貫真尋 (5) 埼玉・新座陸協	13.45	光定愛莉 (5) 奈良・鴻ノ池SC	13.53	河内瀬桜 (5) 宮崎・日向アスリート	13.54	菅本爽帆 (5) 大分・白杵ジュニア陸上	13.68	今村心桜 (5) 北海道・十勝陸上クラブ	13.74	山本記子 (5) 静岡・掛川陸上	13.86	大道菜 (5) 青森・百石陸上	14.06
8/23	6年女子100m	+1.1	須川真衣 (6) 三重・一志Beast	12.91	田村瑠那 (6) 静岡・静岡吉田AC	13.06	新庄理子 (6) 愛知・豊橋陸上クラブ	13.29	藤原采音 (6) 兵庫・小野	13.29	佐伯夏名 (6) 愛媛・ひうち陸上	13.34	上村恵梨 (6) 宮崎・日向アスリート	13.40	安達菜鈴 (6) 滋賀・びわこRC	13.52	井上晴穂 (6) 京都・上狹クラブ	13.60
8/23	女子80mH	-0.4	中山瑞子 (6) 北海道・岩見沢陸上	12.50	篠山結夏 (6) 東京・パディア陸上	12.61	古里智子 (6) 岡山・桜社TFCジュニア	12.84	押上芽生 (6) 伊藤凛乃 (6)	12.90	伊藤凛乃 (6) 三重・一志Beast	12.95	瀬々奈瑠乃 (6) 三重・一志Beast	12.98	干川美空 (6) 群馬・吾妻榊嶺クラブ	13.05	森藤樹杏 (6) 北海道・道教大附属函館	13.16
8/23	走高跳		渡邊里咲 (6) 栃木・宇都宮陸上教室	1.38	赤澤ティファニー (6) 兵庫・港島	1.38	近藤未空 (6) 秋田・追分RC	1.35	玉垂亜美 (6) 高田愛子 (6)	1.30	沖繩・とよみクラブ	1.30	若吉千里 (6) 鹿児島島、さつま柏原	1.30	東海林夢 (6) 北中彩理 (6)	1.30	易永花音 (6) 愛知・知立ジュニア	1.30
8/23	走幅跳		石堂陽奈 (6) 北海道・八雲陸上少年団	5.05 (-0.1)	齋藤珠理 (6) 福岡・福島大学TC	4.95 (+0.5)	依田心優 (6) 茨城・水戸市陸上	4.72 (-0.2)	丸山華凜 (6) 福岡・高良内陸上	4.59 (0.0)	横山愛里 (6) 千葉・市原クラブ	4.54 (-1.1)	中川南英 (6) 富山・立山ランラン	4.50 (-0.2)	静岡・沼津陸上	4.49 (-0.6)	田家ももか (6) 京都・弥栄ランナーズ	4.48 (-0.6)
8/23	ソフトボール投		寺田奈津美 (6) 長崎・遠竹JRC	66.91	高橋咲良 (6) 岩手・北厨川小学校	65.75	矢追美咲 (6) 茨城・春日クラブ	62.59	倉田紗紀 (6) 秋田・太田風の子	62.20	西窪千尋 (6) 鹿児島島、帖佐野球	61.56	益野瑞穂子 (6) 岡山・平島	59.62	秋山美颯 (6) 香川・松崎小	59.35	鈴木伶菜 (6) 栃木・佐野SAC	58.02
8/23	4×100m		鳥取 52.10 布勢TC 岸本百枝 (6) 吉田明香里 (6) 清水美京 (5) 尾崎星 (6)	52.32	安城JAC 安藤百萌 (6) 本田菜摘 (6) 稲垣瑠花 (6) 大嶋紗弥 (6)	52.91	静岡 クレナSAC 諏訪部優月 (6) 藤原実央 (6) 渡辺紗良 (6) 里月里莉花 (6)	53.27	千葉 武井凜 (6) 田村美優 (6) 篠来夢 (6) 千葉琴美 (6)	53.27	和歌山 紀の国AC 野間名津巳 (6) 南方美羽 (6) 田中美美 (6) 上原央詩 (6)	53.51	鹿児島 鹿兒島 53.78 MAC 山田奈津実 (5) 橋本梨那 (6) 永岡佳那子 (6) 宮本夏実 (6)	53.78	福井 54.42 ラッキーメイツ 今井綾音 (6) 松本瑠衣 (6) 直井保乃花 (6) 吉田紗紀 (6)	54.45		

国際陸上競技連盟 (IAAF) カウンシル会議報告

国際委員長 田中 克之 (IAAFカウンスル)

世界ジュニア選手権の開催地であるアメリカ・オレゴン州ユージンにおいて7月20、21日の両日IAAFカウンスル会議が開催されたところ、同会議の概要は次の通りである。

なお、今回のカウンスル会議では特別に大きな討議テーマはなかったが重要だと思われるポイントは次の通りである。

- (1) 世界ジュニア選手権大会のユージン開催の直前にIAAFカウンスル会議を同地で開催した背景には、今回の世界ジュニア選手権をはじめ2016年にはポートランドで世界室内選手権が開催予定であるなど、アメリカでもIAAFの大会に対する関心が高まってきたこの機会を捉え、IAAFの大会やその他の活動をアメリカ国民にアピールすることにより将来のIAAF世界選手権のアメリカ開催につなげたいとする期待がIAAF側に存在すること。
- (2) 陸上競技を如何に魅力的なスポーツにするかということがIAAFの課題になっているが、この一環として競歩の分野においても(未だ試験的ではあるものの)今後予定される国際大会に出来るだけ「ピット・レーン方式」を導入する態度を固めたこと。
- (3) 2015年北京世界選手権で初めてマスターズ種目がエキシビションとして実施されることになったが(2種目のみという条件がついているものの)、これは全世界にマスターズ陸上の存在を知らしめその普及を図る上で大きな助けになる適切な決定であったということ。

記

I. より頻繁にIAAF大会の開催を期待されるアメリカ

- (1) 今回の会議冒頭、Piercy ユージン市長、Hightower アメリカ陸連会長、Lananna 世界ジュニア選手権LOC会長より「歓迎」の辞と共に「今後何度もIAAFの大会がアメリカで開催されることを期待している」旨の挨拶があった。
- (2) ディアック IAAF 会長からも「自分がIAAF副会長になって以来38年になるが、この間今日に至るまで何とかアメリカへIAAFの選手権大会をもってきたと考え努力した。その結果1987年にはインディアナポリスで世界室内選手権、92年にはボストンで世界クロスカントリー選手権を開催できたが、残念ながら、いわゆるアウトドアのトラック&フィールド選手権は開催できないでいた。今回世界ジュニア選手権という形で実現したことは誠に喜ばしい。アメリカには今後益々この種の大会を開催してもらいたい」と述べアメリカへの期待を表明した。

II. 今次会議において審議の主要な対象となったのは(1)事務総長報告(2)委員会及びコミッションからの報告及び諸提案(3)2015年北京世界選手権の進捗報告であった。これらについての主要点ないし決定事項は次の通りである。

1. 事務総長報告

(1) 市民権の変更

2014年4月以降にIAAFが認めた市民権の変更者30名の氏名等が発表されたが、このうち9名が(ケニアをはじめとするアフリカ諸国から)パーレーンへの変更であった。このため何人かの理事から「現行規定に基づけばこれらの変更は認めざるを得ないのかもしれないが、短期間で一カ国だけにこれだけの変更者が認められるのは感情的にしっくり来ない」として何らかの手立てを考えるべきではない

かとの意見が表明された。

(2) 世界記録の認定

2014年3月25日以降18件の世界記録申請があったが、このうち既に認定されたもの5件、認定されなかったもの4件、審査継続中のもの9件と報告された。認可されなかったものはいずれもドーピングテストに係るもので、同テストが実施されなかったもの(1件)、ドーピングテスト結果が提出されなかったもの(3件)であった。

(3) IAAF トレーニングセンター活動

IAAFは全世界に8か所のハイ・パフォーマンス・トレーニング・センター(HPTC)と2か所の種目特化型トレーニングセンターを設置しているが、2014年4月以降これらのセンターで60名(41国籍)がトレーニングを受けていることが報告された。殆どのセンターでは何人かの異なる国籍者が存在するのに対し北京HPTC(5名)、ハバナHPTC(3名)はいずれも中国人あるいはキューバ人のみとなっている。時間の関係もありこの点についての指摘は特に行われなかったが両HPTCが今後改善を求められる点であろう。

(4) 実施済みIAAF大会の評価

本年開催済の太倉(中国)でのワールドカップ競歩、ナッソー(パハマ)で開催の世界リレーが評価の対象となったが、一言で言えば「成功」との評価であった。なお、世界リレーは今回が最初の開催であったこともあり、より詳細に評価が行われたが、特筆されたのは西半球での開催はヨーロッパやアジアとの間に大きな時差があるにも拘わらず、メディア・カバレッジが良好であったことである。日本のTBSが独自に資金人材を注いで同大会を放映したことも評価された。事務総長報告によれば今回大会の参加国(地域)数は41、参加男子選手数276名、女子選手数194名、役員数274名 合計744名である。又種目別の参加チーム数は次の通りである。

種目	4×100m	4×200m	4×400m	4×800m	4×1500m
男子チーム	20	16	20	9	7
女子チーム	19	8	12	9	4

競技コミッションは上記を踏まえ、次の3点、すなわち

- ① 4×1500mに替え第1走者1200m、第2走者400m、第3走者800m、第4走者1600mにすることの是非。
- ② エントリー選手数をより理想的なものに近づける目的で4×100m、4×400mのエントリースタンダードを少し緩めつつもこれを維持するか、あるいはエントリースタンダードをなくしてしまうかの選択。
- ③ 4×100m、4×400mの2つ目の決勝(B Finalと呼ばれるもの)を維持すること。

以上の是非を審議した。その結果は①については結論が得られず ②については多数の委員が「緩やかにしつつも維持」を支持し ③については「B Finalは維持するが、その意味合いを明確化する必要がある」との結論に落ち着いたとの報告が同コミッションからなされた。

(5) 今後のワールドアスレチックシリーズ(WAS=IAAF主催大会)について承認された事項

- ① 2015年世界ユース選手権のタイムテーブル等と男女混合リレー導入の承認

この世界ユース選手権の(ア)タイムテーブル (イ)エントリースタンダード (ウ)これまで実施されてき

た男女別々の2つのメドレーリレーに替え、ひとつの4×400m男女混合リレー(男女各2名)を導入することが承認された。(ウ)については前回のカウンシル会議でも審議されたものの反対論が一部にあり審議が先延ばしになっていたものであるが、今回も賛否両論がでたため投票にかけられることになりその結果賛成11、反対5(その他棄権)で承認された。

② 2015年北京世界選手権でマスターズ種目を実施することの承認

この件はマスターズコミッションからの強い申し入れで審議されることになったものであるが、大会期間中に、IAAFの協力団体である世界マスターズ陸上競技連盟(WMA)が選ぶ2種目のマスターズ陸上競技を実施することが承認された。但しその実施には次のような条件がつけられている。

(ア) 8月29日の17:00~18:00に実施

(イ) 選択される2種目は1500m以下の距離、年齢は50歳以上、参加選手は1種目8名まで

③ 2016年世界室内選手権(於ポートランド)の開催日程(3月18~20日)の承認

④ 2016年世界ジュニア選手権(於カザン)の開催日程(7月19~24日)の承認

⑤ 2017年世界選手権(於ロンドン)のためのIAAF調整委員会メンバーの承認

[組織担当:Hansjorg Wirtz(スイス)、技術担当:Jose Maria Odorizora(スペイン)、競技者代理人担当:Frank Frederiks(ナミビア)]

⑥ 2019年世界選手権開催候補都市評価委員会メンバーの承認

[Sebastian Coe(イギリス)、Abby Hoffman(カナダ)、田中克之(日本)]

なお、2019年世界選手権開催都市は本年11月のカウンシル会議で決定されるが、立候補都市はバルセロナ(スペイン)、ドーハ(カタール)、ユージン(アメリカ)の3都市である。

(6) 2016年リオデジャネイロオリンピック時の陸上競技種目決勝の実施セッションの取り扱い

事務総長より、本年7月11日付け書簡でIOCよりIAAFに対し「世界中の国々のゴールデンアワー時間帯に陸上競技の決勝を放映することにより、陸上競技の放映価値を最大化するため、いくつかの陸上競技種目を午前のセッションで実施出来ないか再検討して欲しい」「また(テレビ側の要請もあり)夕方セッションの開始時間を午後8時30分にずらして欲しい」旨、要請が来ているとの説明が行われた。なお、これにどう対処するかについては今回のカウンシル会議では審議されなかった。

2. 委員会及びコミッションからの報告と提案

今回のカウンシル会議では競歩委員会、プレスコミッション、スクール&ユースコミッション、マーケティングコミッションから報告と提案が行われた。カウンシルが承認した主要な提案事項は次の通りである。

(1) 競歩委員会からの提案で承認された事項

- ① 2014年ユースオリンピック(南京)に続き(ア) 2015年の世界ユース選手権(イ) 2016年のワールドカップ競歩(但しジュニア種目のみ)(ウ) 2016年の世界ジュニア選手権でも「ピット・レーン方式」を導入すること。
- ② 近年盛んになってきている余暇のための競歩(Leisure Walking)をIAAF枠内に取り込んでいくための作業グループを立ち上げること。
- ③ 2015~18年のIAAF国際競歩審判パネルを作成するために2014年中に同パネルの構成者になりうる候補者の

評価が行われるがそのための評価手順。

- ③ IAAFワールドカップ競歩の賞金は団体戦用賞金の比重を重くすること及びIAAFワールドカップ競歩(IAA World Race Walking Cup)の呼称を2016年チェボクサリ大会からIAAF競歩チーム競技大会(IAAF Race Walking Team Competition)に変更すること。

(2) 年間最優秀選手の選出方法を改めるべきだとするプレスコミッション提案

選手コミッションから「年間最優秀選手(男女各1名)に選ばれる選手は一部の競技種目競技者に偏っており公平性を欠いている様に見える。例えばランニング、ジャンプ、投てきなどの分野に分けて選出できないか」との意見が出されたのを受け、プレスコミッション内部でこれについて審議したところ「多くの最優秀選手を選んだ場合、最優秀選手のメディア・バリューが低下してしまうので好ましくない。選出方法を変更することの方がベターである」との結論に達した由である。そして同コミッションから「先ず最優秀ランナー、最優秀ジャンパー、最優秀投てき者、最優秀ロード競技者などいくつかの異なったカテゴリ別に最優秀選手を選ぶ」「次いで、陸上競技に詳しい専門家からなるパネルが、各カテゴリで選ばれた最優秀選手の中から男女各1名の年間最優秀選手を選出する」との具体案が示されこれをカウンシル会議が承認した次第である。なお、マーケティングコミッションも本件についてはほぼ同様の立場を取っていることが同コミッションから報告されている。

3. 2015年北京世界選手権進捗状況報告

中国陸連副会長のShen氏より北京世界選手権の進捗状況について大略次のような説明があった。

- ① 「大会まであと一年！」行事を8月22日に北京で行う。
- ② その際に同大会の公式ポスターとマスコットを一般に披露する。また大会会場となる「鳥の巣」スタジアムの近くに「カウントダウン時計」を設置する。
- ③ 開会式は8月22日17:00~18:00の時間帯で、開会宣言などの公式行事とArtistic Performanceとの二部構成で行う。
- ④ すでに公表されている通り、明年8月22日の男子マラソン競技時に、マラソンコースの最初の10kmを使いマス・ランニングレースを行う。参加者は1万人とする。このうち5000人は今年の10月から明年の6月にかけて中国で開催される30のマラソン競技参加者から大会LOCが選ぶ。4000人は一般から公募する。残りの1000人は大会スポンサー枠とする。なお、現時点においては大会のマラソンコースは未だ決まっていない。

4. 2016年リオデジャネイロオリンピックについての説明

同オリンピックLOCのギマランエス・スポーツディレクターとレビー CEOから大略次のような話があった。説明や応答ぶりから大会準備が若干遅れていることが伺われた。

- ① 陸上競技関係の大会会場は3つになる。オリンピックスタジアムが出来るマラカナン地区、マラソンのスタート/フィニッシュ地点となるサンボドロモ地区、競歩会場となるコパカパマ地区にあるフラメンゴ公園である。主要な練習場は空軍大学になる(あと2カ所設ける予定だが検討中)。
- ② 各会場の収容人員は、オリンピックスタジアム6万人、フラメンゴ公園が架設で3800人、サンボドロモが架設で2万人となる。
- ③ 選手村から会場までの距離はオリンピックスタジアムが19km、フラメンゴ公園が39km、サンボドロモが35kmである。

日本陸連疲労骨折予防10か条～疲労骨折に注意！ 予防しましょう！～

医 事 委 員 会 委 員 櫻 庭 景 植

疲労骨折予防10か条

- ひ 疲労感、体調には十分気をつけましょう。
- ろ ロードでもトラックでもフィールドでもたくさん走れば発生します。
- う 運動しすぎは要注意です。
- こ 骨密度が低ければ、発症率は高くなります。
- っ つらい減量は疲労骨折のもとです。
- せ 生理（月経）がこないようでは骨が減ります。
- つ 疲れた筋肉では、骨を守れません。
- よ よい栄養をとりましょう。
- ぼ ボーイもガールも、疲労骨折はおこります。
- う 運動、ランニング中のしつこい痛みは、すぐ医師へ。
疲労骨折（stress fracture）とは、ごく小さな外力の繰り返しにより、骨に慢性的にストレスが加わり、ついには骨に微細骨折を生じた状態をいいます。
ランニングの繰り返し、走り過ぎなどにより生じ、骨にヒビのような状態を作り、時には完全骨折にいたることもあります。
マラソンなどの長距離ランナーや市民ランナー、中高生でもよくおこります。
脛骨（すねの太い骨）、中足骨（足の甲の骨）によく生じます。
女性では、エネルギー不足、無月経、低い骨密度が関係し、女子アスリートの三徴候とも言われます。
一度、発症すると1～3ヶ月と長期にわたり、まともに走ることができなくなります。よって本症の予防は大切です。
予防はなかなか難しいことですが、本症には特徴があります。医事委員会疲労骨折予防プロジェクトチームは、疲労骨折予防10か条を作成しました。指導者、競技者ともに疲労骨折について知り、少しでも予防策に役立ててください。
- ### 日本陸連疲労骨折予防10か条
- ひ；疲労感、体調には十分気をつけましょう。
（ふだんと違う感覚があれば勇気を持って休みましょう。休むこと、これも大切な練習サイクルのひとつです。どうしても走らないと落ち着かなければ、たくさん歩きましょう、痛くなければ。また、プールで歩くことも薦めます。プールでは体重の負荷は、腰の高さで半分になります。）
- ろ；ロードでもトラックでもフィールドでもたくさん走れば発生します。
（疲労骨折はロードでも、トラックでも、グラウンドでも、体育館でも、使い過ぎにより生じます。では、どのくらい走れば疲労骨折になりやすいか？
これはとても気になることですが、残念ながら、決まりはありません。体力・体格の個人差、環境の問題などいろいろな要素があり、一概には決められません。）
- う；運動しすぎは要注意です。
（疲労骨折は走り過ぎだけではなく、よくジャンプするスポーツでも生じます。脛骨（すねの太い骨）、中足骨（足

の甲の骨）によくみられますが、いろいろな骨、どこにも生じます。骨盤の恥骨・坐骨、大腿骨、腓骨（下腿の細い方の骨）、足の足根骨（踵骨など）などあらゆる骨にみられます。）

- こ；骨密度が低ければ、発症率は高くなります。
（骨の力学的強さをみる目安の一つに骨密度があります。骨密度が低いと、骨は外力・ストレスへの抵抗力が弱くなり、疲労骨折を起こしやすくなります。骨密度は20歳前後でもっとも強く、残念ながら後は徐々に弱くなっていきます。骨密度を高くしたければ、カルシウムをよく取り、日光を浴びて（骨代謝に重要なビタミンDの代謝が充進）、適度な無理のない力学的負荷（動いたり、歩いたり、無理なく走ったり）を与えてください。）
- っ；つらい減量は疲労骨折のもとです。
（減量のための不適切な食事では、疲労がたまり、体調をくずし、故障を繰り返し、疲労骨折が起きやすくなります。摂食障害、エネルギー不足は疲労骨折を起こしやすくなります。きちんと食事をして、走って、動いて、体重が増えないようにしましょう。）
- せ；生理（月経）がこないようでは骨が減ります。
（無月経を放置すると、骨密度を維持するエストロゲンが不足する結果、骨は弱くなります。摂食障害があり、月経が来ないと若い女性でも骨密度は減ります。また女性では、閉経後しばらくして、エストロゲンの分泌不足に伴い、明らかに骨密度は減ります。気になる方は、一度は骨密度を測定することをお勧めします。）
- つ；疲れた筋肉では、骨を守れません。
（筋肉がきちんと働かないと、走ることによる骨への負担はとて大きくなります。筋力が適度にあると、骨への力学的負担を減らし、繰り返しのストレスを軽減し、疲労骨折を起こしにくくします。走るだけではなく、適当に筋力訓練もすることをお勧めします。）
- よ；よい栄養をとりましょう。
（ビタミンDやカルシウム、たんぱく質など、バランスのよい食事をとりましょう。骨を形成する重要な要素であるカルシウムはもちろん取る必要はありますが、骨の代謝をよくするためには、ビタミンDの摂取も大切です。栄養、ビタミン系は健康補助食品ではなく、普通の食事で取ることをお勧めします。）
- ぼ；ボーイもガールも、疲労骨折はおこります。
（女子に多く発症しますが、男子にも生じます。疲労骨折は高校生、大学生・実業団選手によくみられますが、ピークは17歳くらいです。）
- う；運動、ランニング中のしつこい痛みは、すぐ医師へ。
（早期に疲労骨折が発見され、治療を開始した選手は復帰も早いです。早期治療、早期スポーツ復帰、重要です。痛みが続くときは一人で悩まずにスポーツドクターを受診してください。また疲労骨折はX線画像で変化がみられますが、初期にはまだ陽性所見を呈しないことがありますので注意してください。）

練習中及び競技会中の事故について

事務局

近年陸上競技における、練習中、競技会中の事故がたびたび発生し、新聞などで報道されています。日本陸上競技連盟では、2012年に安全対策ガイドラインプロジェクトを立ち上げ、「安全対策ガイドライン」を策定しました。

また2013年に、その内容について全国の指導者、競技者にわかりやすくお伝えするために「陸上競技安全対策ガイドブック」を作成し、全国の全ての中学校、高校、陸上部のある大学、実業団などに配布し啓発活動を進めています。

〈留意するポイント〉

- 競技会でのリスクを認識する。
- 事故に対する備えをする。
 - ＞先例を集積・共有し、対策を立てておく。
 - ＞事故になりかねない事例についても、詳細に記録し、対策を講じることで重大な事故を未然に防ぐ。
- 事故が起きた場合、事実をしっかりとトレース、把握する。
- 事故の内容によっては、自分たちでは判断せず法律家との協議も必要となる。

しかしながら、2014年に入りましても同様の事故が発生しております。本連盟といたしましてもこういった状況を非常に重く受け止めております。今後あらゆる場面で啓発等の機会を作って参りますが、まずは本連盟が作成いたしました「安全対策ガイドライン」及び「安全対策ガイドブック」を改めてできるだけ多くの皆様にご覧いただき、それぞれの競技の環境の中で、下記の点についてご留意いただき日々の練習、競技会に臨んでいただきますようよろしくお願い致します。

安全対策ガイドライン

<http://www.jaaf.or.jp/rikuren/pdf/safety.pdf>

安全対策ガイドブック

<http://www.jaaf.or.jp/rikuren/pdf/safetybook.pdf>

The image shows the cover and a preview of the JAAF Safety Countermeasures Guidebook. The cover features a cartoon character and the title '安全対策できていますか?' (Are you doing safety countermeasures?). The preview includes sections on '安全対策ガイドブックの3つの特長' (3 features of the safety countermeasures guidebook), '安全対策3つの基本' (3 basic safety countermeasures), 'スポーツ全般に共通する安全対策' (Safety countermeasures common to all sports), and '安全管理の方法' (Methods of safety management). The JAAF logo is prominently displayed at the top right.

2014数字で見る陸上競技Vol.4 都道府県別高校生陸上競技部員割合

事務局

2014数字で見る陸上競技、4回目の今回は、高校生の陸上競技部員の全高校生生徒数における割合を都道府県別にご紹介します。2013年度の日本陸上競技連盟における高校生登録者を、同年度の高校生生徒数（文部科学省調べ）で割ったものです。

【算出方法】 割合（％）＝（高校生陸連登録者数）÷（高校生全生徒数）×100

都道府県名	2013年度高校生 陸連登録者数	前年比	前年度数	2013年度高校生 全生徒数	2013年度割合	2012年度高校生 全生徒数	2012年度割合
北海道	4,359	107	4,252	134,359	3.2%	139,147	3.1%
青森	1,626	-83	1,709	38,001	4.3%	40,037	4.3%
岩手	1,765	-4	1,769	35,750	4.9%	37,533	4.7%
宮城	2,389	-136	2,525	61,477	3.9%	62,424	4.0%
秋田	1,519	12	1,507	26,882	5.7%	28,724	5.2%
山形	1,570	-39	1,609	31,818	4.9%	33,511	4.8%
福島	1,987	-64	2,051	54,705	3.6%	57,343	3.6%
茨城	2,124	-39	2,163	78,929	2.7%	79,826	2.7%
栃木	1,427	-35	1,462	54,446	2.6%	55,316	2.6%
群馬	1,689	-43	1,732	53,421	3.2%	54,133	3.2%
埼玉	5,347	-33	5,380	178,294	3.0%	177,631	3.0%
千葉	5,528	195	5,333	152,565	3.6%	151,537	3.5%
東京	8,117	-70	8,187	315,966	2.6%	315,341	2.6%
神奈川	5,818	190	5,628	205,023	2.8%	201,387	2.8%
新潟	2,490	-3	2,493	61,476	4.1%	63,642	3.9%
富山	1,127	-22	1,149	28,574	3.9%	29,279	3.9%
石川	1,281	-22	1,303	32,233	4.0%	32,352	4.0%
福井	758	20	738	23,159	3.3%	23,748	3.1%
山梨	946	-40	986	26,379	3.6%	27,319	3.6%
長野	1,658	-100	1,758	59,093	2.8%	60,331	2.9%
岐阜	2,167	55	2,112	56,652	3.8%	57,276	3.7%
静岡	3,995	-225	4,220	101,048	4.0%	101,507	4.2%
愛知	7,482	172	7,310	198,742	3.8%	194,965	3.7%
三重	2,171	44	2,127	50,483	4.3%	50,645	4.2%
滋賀	1,536	53	1,483	39,513	3.9%	38,954	3.8%
京都	2,386	55	2,331	72,018	3.3%	71,903	3.2%
大阪	6,319	431	5,888	236,403	2.7%	232,159	2.5%
兵庫	5,539	15	5,524	144,968	3.8%	144,054	3.8%
奈良	1,136	-34	1,170	37,390	3.0%	37,866	3.1%
和歌山	847	-12	859	28,446	3.0%	29,203	2.9%
鳥取	761	-27	788	15,419	4.9%	16,377	4.8%
島根	845	-6	851	18,852	4.5%	19,580	4.3%
岡山	1,499	-7	1,506	54,948	2.7%	54,925	2.7%
広島	2,859	94	2,765	74,373	3.8%	75,275	3.7%
山口	1,688	6	1,682	35,058	4.8%	36,042	4.7%
徳島	543	-10	553	19,904	2.7%	20,602	2.7%
香川	944	16	928	26,202	3.6%	26,111	3.6%
愛媛	1,373	16	1,357	35,840	3.8%	36,829	3.7%
高知	615	19	596	19,583	3.1%	20,746	2.9%
福岡	4,048	110	3,938	132,049	3.1%	133,531	2.9%
佐賀	1,223	-9	1,232	25,562	4.8%	26,240	4.7%
長崎	1,958	32	1,926	40,571	4.8%	42,495	4.5%
熊本	1,658	198	1,460	49,211	3.4%	51,113	2.9%
大分	1,000	-17	1,017	32,337	3.1%	33,746	3.0%
宮崎	1,031	10	1,021	32,869	3.1%	34,364	3.0%
鹿児島	1,491	29	1,462	46,721	3.2%	50,232	2.9%
沖縄	776	80	696	47,353	1.6%	48,308	1.4%
合計	111,415	879	110,536	3,325,065	3.4%	3,355,609	3.3%

※高校生全生徒数は、文部科学省ホームページ統計情報（http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/main_b8.htm）内、学校基本調査の高等学校＞全日制・定時制 学年別生徒数 からの抜粋

大会観戦ガイド

JOCジュニアオリンピックカップ 日本ジュニア・ユース陸上競技選手権大会 第30回日本ジュニア陸上競技選手権大会 第8回日本ユース陸上競技選手権大会

日本ジュニア・ユース選手権を愛知・瑞穂公園陸上競技場で開催します！若きアスリート達の熱戦を是非、会場で！

▼日時：10月3日（金）～5日（日）

▼場所：瑞穂公園陸上競技場

愛知県名古屋市長瑞穂区山下通5-1

▼アクセス：地下鉄桜通線「瑞穂運動場西」駅2番出入口より徒歩10分（豊岡通を左へ500m直進）、地下鉄名城線・桜通線「新瑞橋」駅5番出入口より徒歩10分、地下鉄名城線「瑞穂運動場東」駅3番出入口より徒歩5分

▼種目：【ジュニアの部】〈男子 14種目〉100m、200m、400m、800m、110mH、400mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投 〈女子 14種目〉100m、200m、400m、800m、100mH、400mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投

【ユースの部】〈男子 15種目〉100m、200m、400m、800m、110mH、400mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、4×100mリレー 〈女子 15種目〉100m、200m、400m、800m、100mH、400mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、4×100mリレー

▼テレビ放映予定：東海テレビ放送予定

▼問い合わせ先：一般財団法人愛知陸上競技協会

TEL：052-249-4363 FAX：052-249-4366

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1211/>



去年の大会で三段跳優勝・山本凌雅選手

第69回国民体育大会陸上競技会

秋のスポーツの祭典・国体を長崎・長崎県立総合運動公園陸上競技場で開催します！各都道府県を代表する中学生から一般選手までの活躍を応援して下さい！

▼期日：10月18日（土）～10月22日（水）

▼会場：長崎県立総合運動公園陸上競技場

長崎県諫早市宇都町27-1

▼アクセス：諫早バスターミナル（JR諫早駅前）始発、長崎方面行きで10分、「競技場北口」下車徒歩5分程度。JR諫早駅より徒歩30分。

▼種目：【成年男子】100m、400m、800m、110mH、400mH、10000m競歩、走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投、やり投 【少年男子A】100m、400m、5000m、400mH、棒高跳、走幅跳、ハンマー投、やり投 【少年男子B】100m、3000m、110mH、走幅跳、砲丸投 【少年男子共通】800m、5000m競歩、走高跳、三段跳、円盤投 【成年少年男子共通】4×100mリレー 【成年女子】100m、400m、1500m、5000m、100mH、10000m競歩、走高跳、走幅跳、ハンマー投、やり投 【少年女子A】100m、400m、3000m、400mH、走幅跳、ハンマー投 【少年女子B】100m、1500m、100mH、走幅跳 【少年女子共通】800m、棒高跳、砲丸投、やり投 【成年少年女子共通】4×100mリレー

▼テレビ放映予定：NHK Eテレ

10月18日（土）16：00～17：00

10月19日（日）16：00～17：00

▼問い合わせ先：

長崎がんばらんば国体・長崎がんばらんば大会

諫早市実行委員会事務局

TEL：0957-22-2426 FAX：0957-22-3520

長崎県ホームページ

<http://nagasaki-kokutai2014.jp/>

諫早市ホームページ

http://www.city.isahaya.nagasaki.jp/cat_kokutai_c



第68回国体・成年少年少女共通4×100mリレー優勝・岩手

JAAF SHIGA 一般財団法人滋賀陸上競技協会

〒520-0037 大津市御陵町4-1 皇子山陸上競技場内2-1室
TEL.077-527-3925 FAX.077-527-3925
<http://www.biwako.ne.jp/~srkshiga/>

平成26年6月29日(日)10時から、滋賀ビル9階会議室において平成26年度定時評議員会を開催しました。

評議員全員(11名)の出席のもと、野村評議員を議長に選出し、下記事項についてすべて承認されました。

第1号議案 平成25年度活動報告及び決算報告について

第2号議案 平成26年度事業計画及び予算案について

『意見交換』

・滋賀県では、2巡目国体の開催(平成36年)が内々定しているが、選手育成のためには、指導者の確保とその力量が問われることになる。今すぐにも、そのための方策や組織づくりにとりかかってほしい。

・法人として、適正な予算の執行をお願いしたい。

JAAF OSAKA 一般財団人大阪陸上競技協会

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-1
ヤンマースタジアム長居内
TEL.06-6697-8899 FAX.06-6697-8766
<http://www.oaaa.jp/>

大阪選手権に強豪府外勢多数出場!!(ヤンマースタジアム長居)

第82回大阪陸上競技選手権大会は6月27~29日ヤンマースタジアム長居で開催。多くの強豪府外所属選手が出場した。2007大阪世界陸上でお馴染みの長居の高速トラックが選手を寄せ付けるのであろうか。ちなみに男子は400mに金丸祐三選手(大塚製薬・徳島)、走幅跳到猿山力也選手(モンテローザ・東京)、走高跳到土屋光選手(モンテローザ・東京)、砲丸投に鈴木孝高選手(okuwa・和歌山)などが並ぶ。結果、男女100mは4位まで、男子200mは6位までが府外勢の入賞となった。

第1回木南記念陸上 春一番ハードラー大阪の決戦(ヤンマースタジアム長居)

5月11日(日)ヘルシンキオリンピック110mH代表として活躍した故・木南道孝元大阪陸協会長(元日本陸連名誉副会長)の功績を記念した「第1回木南道孝記念陸上競技大会」を開催。2020東京オリンピック・パラリンピックを見据えたハードル選手の強化に加え、世界で戦えるジュニア選手育成を狙ったもの。男子110mH、女子100mH、男女400mHのトップアスリートが競うヤンマースタジアム長居には7000人のハードルファンが集った。男子招待110mHでは矢澤航選手(デサントTC)が13秒69の大会新で優勝。同400mHは小西勇太選手(住友電工)が50秒30で制し、女子招待400mHは第一人者の久保倉里美選手(新潟アルビレックスRC)がゆうゆうの走りを見せ56秒40で貫禄勝ち。同100mHは、地元の上田蘭選手(大阪成蹊大学)が13秒72で優勝を飾った。

JAAF KYOTO 一般財団法人京都陸上競技協会

〒615-0872 京都市右京区西京極南衣手町57番2
TEL.075-322-5500 FAX.075-322-5501
<http://www.krk26.jp/>

甲府インターハイでは、京都府勢の活躍が連日報道されました。男子13種目延べ16人、女子6種目延べ5人とリレー1チームが表彰台に上るという活躍ぶりでした。その頂点に立つ形で男女の最優秀選手に、石山歩選手(花園高校)とヘンプヒル恵選手(京都文教高校)が選ばれました。京都を代表するアスリートにとどまることなく、2020年東京オリンピックで日本を代表して活躍する選手に成長してほしいと思います。

8月18日から香川県で開催の全日本中学校陸上競技選手権大会には49名(リレーエントリー選手を含む)が出場。京都からは25年ぶりに男子棒高跳で出場する奥史玖選手(嵯峨中学校)は、近畿大会を4m30の自己新記録で制しました。高校生に負けない中学生の活躍を期待したいものです。

2015年2月15日に開催される京都マラソン2015のランナー受付が始まりました。多くの市民ランナーに評価されている京都マラソンですが、2015大会からコースの一部が変更となります。京都市街中心部と京都府立植物園内をコースに取り込むことによって、さらに魅力あふれるマラソンコースとなりました。フィニッシュ直前の折り返し部分がなくなり、より走りやすく感動の大きなフィニッシュを迎えられることでしょう。全国高校駅伝、全国女子駅伝、車いす駅伝の準備も本格化していきます。これからも京都の陸上競技界にご注目ください。

(文責:広報部長 相模浩史)

JAAF HYOGO 一般財団法人兵庫陸上競技協会

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通4丁目1番6号
神戸市生涯学習支援センター内
TEL.078-231-1771 FAX.078-231-1772
<http://www.haaa.jp/index2.html>

例年になく異常気象が続き、被害にあわれた方々が全国各地にたくさんおられると思います。皆さま方に心よりお見舞い申し上げます。

7月の兵庫選手権、8月の全国高校総体・全国中学、9月の近畿選手権も終了し、選手たちは秋の競技会・駅伝に向けた練習に励んでいることと思います。強化委員会では、10月に長崎で開催される国民体育大会のための強化指定選手合同合宿を終えたところです。

本県にゆかりのある選手が、世界ユース・世界ジュニア・アジア大会に多く選出されました。一人一人のパフォーマンスが楽しみです。

さて、一般財団法人2期目となり、定款及び内規の一部見直しを行いました。現在は、常務理事会で協会運営の実質的な見直しを行っているところです。具体的には、各委員会の活性化、兵庫選手権、競技会運営の競技役員旅費、競技規模によつての競技役員数、競技役員統一服装、参加料、プログラム代等の見直しを実施しています。

第4回神戸マラソンを11月23日(日)に開催します。阪神・淡路大震災から20年を迎える節目の大会となり、創造的復興を果たした兵庫・神戸の姿や震災の経験と教訓を「20年目のありがとう」の想いに込めて国内外に発信していきます。抽選の結果、フルマラソン・クォーターマラソン合わせて20,000人にさせていただきました。選手の皆様が快適に走れるように、一部コースを変更して準備しておりますのでよろしくお願いいたします。

陸協NEWS

**JAAF**
NARA

一般財団法人奈良陸上競技協会

〒630-8113 奈良市法蓮町349-1 コーポラス一条415号
TEL.0742-27-2312 FAX.0742-27-2312
<http://www.narariku.com/>

当協会は、近年競技力の低迷に悩んでおり色々な強化策を実施してまいりました。特に中高生の競技力向上をめざし、年間数回の強化練習会を実施した結果、少しずつ成果が出てまいりました。一例として、今年は全日本中学校選手権に110mHの樋口陸人選手（平城東中学校）をはじめランキング選手6名を含む37名の選手を出場させることができました。この背景には、中学校指導者の先生方の連携と各専門分野の指導法の研修・隔週の練習会等、中体連一丸となつての取り組みが実を結んだものと感謝しております。今後は、この取り組みを高体連にも積極的に取り入れていただき中高一貫の指導体制が築けるよう協会として全力で支援をしてまいりたいと考えております。この体制が整えば、有望選手の県外流出という問題も多少改善されるように思います。

JAAF
TOTTORI

一般財団法人鳥取陸上競技協会

〒680-0944 鳥取市布勢146-1
コカ・コーラウエストスポーツパーク陸上競技場（第2研修室）
TEL.0857-28-6540 FAX.0857-28-6540
<http://www.hal.ne.jp/trk/>

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて各県が具体的に動き出しました。鳥取県も遅ればせながら、文化観光スポーツ局スポーツ課が設置され、スポーツを通して県の活性化を図る拠点ができました。本協会も、県と連携して、国内外の強豪チームのキャンプ誘致や大規模大会の誘致を推進して、陸上競技の発展につなげていかねばと考えています。2007大阪世界陸上のジャマイカチームの事前キャンプは有形無形の財産を鳥取に残してくれました。今回も熱烈に事前キャンプ誘致を要望しています。地域的には不利な条件ですが、最高のキャンプを実現できる準備をしていきたいと思っております。

競技力の向上は永遠の課題ですが、「障がいのある人のスポーツ」が今後の大きな課題ととらえています。競技力の向上、エリート競技者育成やジュニア競技者育成だけでなく、女性、高齢者、障がいのある人たちの陸上競技にどう取り組むかが、今後の大きな課題と考えます。目前では、指導者や審判員の減少、また高齢化が進み、協会の運営に大きな支障を来す危惧を持っています。若手指導者の育成と若手審判員の養成が喫緊の課題です。一方で、市民マラソンは隆盛で、ランニングがライフスタイルとなりつつあります。今までの競技スポーツ経験者とは違う多様な価値観を持つ市民ランナーや陸上愛好者をどう仲間に引き入れるか、また、仲間に入りたいと思わせる魅力ある協会をどう再構築していくかがもう一つの大きな課題と考えています。今回の東京開催で、本協会の課題解決と将来の発展のための起死回生のチャンスととらえています。

JAAF
WAKAYAMA

一般財団法人和歌山陸上競技協会

〒641-0014 和歌山市毛見200 紀三井寺公園陸上競技場内
TEL.073-444-3662 FAX.073-444-3662
<http://wariku.com/>

和歌山県では、来年度に近畿高校総体と全国高校総体、そして第70回国民体育大会「2015 紀の国わかやま国体」と、第15回全国障害者スポーツ大会「2015 紀の国わかやま大会」を開催し、7月から10月まで、近畿・全国からたくさんのお客様をお迎えすることになります。

私たち和歌山陸協で、これらの大会に向けて準備や研修の真っ最中です。いくつかの大会をリハーサル大会と位置づけ、計画的に大会運営や審判員技術向上などに努めているところです。国体での総合優勝を見据えて、数年前から選手強化に努めています。特に少年A・Bについては中学生時から計画的な強化が図られています。施設面では、国体や障害者スポーツ大会に向けて、多くの競技施設の改修工事や新設工事も進められています。陸上競技場関係では、1つ新しい陸上競技場が建設されています。他にも改修される陸上競技場が1つ。ともに国体で陸上競技の会場ではありませんが、陸上競技場が増える事や改修されることは、陸上競技関係者や競技者にとって喜ばしいことだと思っています。和歌山陸協としても、陸上競技場の維持管理に努力し陸上競技の普及と競技力向上に役立てたいと考えています。

さて、本年度も秋のシーズンが到来です。

小中高校生を大会を中心に多くの大会を開催します。また、ロードレースやマラソン、駅伝のシーズンにも入ってきます。10月26日には万葉集にも詠まれた和歌浦でJazzを聞きながら走る「和歌浦ベイマラソン with Jazz」。今年で14回目を迎えます。

(文責：技術部長 玉井一人)

JAAF
SHIMANE

一般財団法人島根陸上競技協会

〒690-0015 松江市上乃木10-4-1 松江市営陸上競技場内
TEL.0852-23-6686 FAX.0852-23-6686
<http://www.shimariku.jp/index.html>

島根から2020年東京オリンピックへ

全国高等学校総合体育大会を終え、島根からは2名の優勝者を出しました。1名は青山聖佳選手（松江商業高校）で200m、400mの2冠達成。もう一人は澤慎吾選手（大社高校）の棒高跳。青山選手は昨年のインターハイ100m 5位、200m 2位、400m 4位。世界ユース日本代表として200mで23秒78のユース日本新記録、日本高校歴代5位の記録を出し、順調に高校最後の年を迎えるところでしたが、春先からの故障により思うような練習ができず、何とか地区大会を突破し、インターハイまでの1カ月で仕上げていきました。日本選手権では400m 2位となり、リベンジに燃え臨んだ今大会で結果を残しました。一方、澤選手は故障怪我知らずで春先からコンスタントに記録を伸ばしていき、昨年はインターハイ4位、日本ユース2位、大阪室内2位と頂点には立てませんでしたが、今年はいんターハイ優勝を目標に大会に臨みました。今年の大会は地区大会10名が5mを越える激戦で、決勝では5m15を3名が越え、5m20のラウンドで強風のためビットが変わる悪条件の中で、5m20を3名ともパスし、5m25を1回目で成功した澤選手が優勝を手に入れました。この記録は日本高校歴代5位、島根県新記録であり、顧問の柳楽達也先生の5m20の記録を越えたものでした。この2名は島根の宝であり、将来日本の宝となるものと信じています。2020年の東京オリンピックでは共に24歳。絶好期を迎え、胸に日の丸を付けメダル争いをする選手になっていることを期待しています。

(文責：総務委員長 矢野 力)

事務局からのお知らせ

◆◆facebookを始めました◆◆

日本陸連では8月よりfacebookを始めました。

各種大会や代表選手の情報、普及育成事業などさまざまな情報を発信していきます。

是非下記にアクセスしてください。

<https://www.facebook.com/JapanAthletics>

各競技会の情報等をお伝えしていきます。



◆◆ロードレースシーズンが始まります!◆◆

11月から、冬のロードレースシーズンが始まります!

日本陸上競技連盟主催の競技会は、来夏の第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京)の代表選手選考競技会となっている6競技会。

各競技会の詳細な情報は大会ウェブサイトにて。

- ・第6回横浜国際女子マラソン大会 2014年11月16日(日)開催
<http://www.yokohamawomensmarathon.com/>
- ・第68回福岡国際マラソン選手権大会 2014年12月7日(日)開催
<http://www.fukuoka-marathon.com/>
- ・第34回大阪国際女子マラソン大会 2015年1月25日(日)開催
<http://www.osaka-marathon.jp/>
- ・東京マラソン2015 2015年2月22日(日)開催
<http://www.tokyo42195.org/2015/>
- ・第70回びわ湖毎日マラソン大会 2015年3月1日(日)開催
<http://www.lakebiwa-marathon.com/>
- ・名古屋ウィメンズマラソン2015 2015年3月8日(日)開催
<http://womens.marathon-festival.com/>

陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩(陸連会長)
三宅 勝次(陸連副会長)
友永 義治(陸連副会長)
尾縣 貢(陸連専務理事)
原田 康弘(陸連強化委員長)
風間 明(陸連事務局長)
高橋 克実(陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

森 泰夫
◇時報編集担当
繁田 進
石塚 浩
木越 清信
宮田 宏
本田香代子
森谷 真咲

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
ウェブサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>